

アメニティの機関紙

【巻頭言】

そこに、人がいる限り

不破輝彦（職業能力開発総合大学校）

生理人類士は、ある業務を行うにはこの資格を持っていないといけない、というもの（業務独占資格）ではない。しかし、資格を得るために勉強した内容や生理人類学の研究で得た知見は、実は想像以上に必要とされていることに、多くの方は気付いていないかもしれない。

実を言うと、私もその一人であった。私の職場（以下、職業大）は日本の職業訓練の中核機関であり、職業訓練指導員（職業訓練校の先生）の養成や研修などを主要業務とし、それらを実証するものとして大学相当の教育課程も持っている。私は電気工学系を主に担当し、研究指導では生理人類学や生体工学を専門としている。快適で使いやすい製品設計をテーマに現職の職業訓練指導員を対象とした研修も担当しているが、職業訓練の現場、特に機械加工などの“ものづくり”の技能指導については、私の専門は無関係と思っていた。

しかし、このような技能を効果的・効率的に習得させるためには、作業中の人間の感覚と認知、判断と身体動作、心身のストレス、環境との相互関係がキーポイントになるという認識を、最近、持つようになった。これは職業大が推進すべき重要テーマであることから、今年から学内の多様な分野の研究者同士で勉強会が始まったところである。そんな中、ふと、目の前にあるグレーの本（「生理人類士入門」第8版）を手にとってみると、このテーマに必要とされる多くの内容がこの本の中に詰まっていた。このグレーの本を、これから勉強会で活用していこうと思っている。

そこに人がいて、人が何かをするとき、必ずや、生理人類士の活躍の場がある。私はそのように信じています。

【寄稿】

ホノルルマラソン体験記

神宮佐登美（ピーエス株式会社）

2012年12月9日、私は太平洋の赤道近くにあるハワイのオアフ島で開催されたホノルルマラソン（42.195km）に出場しました。

ホノルルには12月8日の朝7時に到着しました。空港ロビーは冷房が効いて室温は19℃くらい。常夏の国の人も、12月は涼しさを求めるのだろうかと思ふ不思議な気持ちになりました。

12月9日、朝0時30分起床。頭痛に悩まされ、結局3時間くらいしか眠れませんでした。5時、花火の合図でスタート。走り始めて夜が明けるまで2時間ほどは快調でした。だんだん日が明るくなり、爽やかな海風を受けて走るときは、さほど湿度も高くなく、穏やかな暖かさの中を走っているとき、まさに私は快適だと感じていました。それから太陽が高くなり、ダイヤモンドヘッドという山を横目に上り坂。このころからまた頭痛が始まりました。スタートしてから4時間、今度はハイウェイです。日陰がひとつも無い道路を、太陽に向かってひたすら走るのです。折り返してくる速いランナーたちとすれ違いながら、暑さと頭痛と闘いました。3～4kmおきにある水飲み場を通るときは歩いて休みました。それから、持ってきた塩を時々なめました。走り始めて5時間、やっとハイウェイの折り返し地点です。今度は追い風で太陽に背を向けて走ります。早くゴールにたどり着かなければ熱中症になるのではと危機を感じると、走り続ける元気が沸いてきました。30km 31km 32km…、水を飲み、走り、水を飲み…。頭はガンガン、足は棒のよう、体中塩だらけ。あー苦しい！

そしてFINISH！記録は6:40:45。走り遂げた私は、自分が人類である喜びをかみしめました。

【生理人類士の声・準1級】

快適な労働環境の空間デザインへ向けて

佐藤公樹（武蔵野大学通信教育部）

雪国の農家育ちの私は、環境が子どもの頃と現在で違っていることを実感してきており、今後更に変化は加速していくのではと関心を持っていた。

実際、私たちの身の周りで起きている変化が環境による影響と思われるものが数多くある。サンゴの生息域の北方への拡大、海水位の上昇、降雪量の減少、局地的な豪雨、真夏日・熱帯夜の日数増加等、具体的事象を上げることができる。

また、科学技術の急速な発展が季節感を無くし、生活環境が変化した。「食」は季節感のある食材が年間を通し食卓を飾り、「住」は空調や建築技術により快適空間がどこでも得られる。文化や人類の環境適応能への影響を進めてきていると思われる。

今回、生理人類学を学んだことで、関心をもっていた環境変化について考える機会となり、また、安全衛生・施設管理を会社で担当している私は、社員への快適な労働環境を提供できるよう空間デザインの検討に取り入れて行きたい。

学んでいった中での気づき

甲斐田莉芳（福岡女学院大学人間関係学部）

私は大学に入る前まで生理人類学という言葉も知りませんでした。しかし、生理人類学の講義を受け、人類の環境への適応や光や温度など人間の内側から外側のことまで学び、人が暮らしやすい環境を知りこの知識が役に立つ仕事に就きたいと考えていた私は生理人類学についてもっと深く知りたいと思うようになりました。そして、その途中でアメニティの資格があることを知り、この資格の取得へとつながりました。勉強していく中で、人間には他の動物にはない多くの優れた機能があることがわかり、身体の仕組みや生活環境が身体に与える影響を知ることによって生活しやすくなるのと同時に環境問題と戦うことができる学問であることに気づきました。生理人類学で学んだことを生かし、生活に少しの工夫を取り入れることにより自分だけでなく多くの人が快適で健康な生

活ができるようなお手伝いをしたいと思います。

【生理人類士の声・2級】

資格を取得して思うこと

小川ひろみ（武蔵野大学通信教育部）

高齢社会に向かう中で、「高齢者」に興味を持ち、大学に編入して老年心理学を中心に学び始めました。人はいかんにして高齢まで健康を維持し、幸福感を持って生きられるか。そこには、どのような環境や心理的要因が作用するのか。

そんな時、「アメニティ=快適性」という言葉に出会い、生理人類士の資格を知りました。

アメニティの範囲はとても広く、衣食住環境や心理面にも影響を及ぼし、最終的には人間の「生活の質」(QOL=Quality of life)につながるものです。日常生活の中で人間と環境の快適性をデザインし、評価し、アドバイスを行うというアメニティスペシャリストの趣旨を踏まえ、学んだ人類の進化や人間の環境適応の歴史、発育、加齢などの知識を、高齢者の快適な生活環境づくり、QOLの向上に活かしていきたいと考えます。

全ては出会いから

長島佑依果（実践女子大学生生活科学部）

高校二年の時、私は進学相談会で一人の教授に出会った。話し方、話題、雰囲気といったものが他のブースの先生方とは明らかに違い、ずいぶん変わった人だなあと考えた。そして本学に入学し、再会したのである。

仲間で研究室に押しかけ、大声で騒ぎ、そこにあるもの全てを食べ尽くした。今頃になって恥ずかしく思う。先生は仕事を諦めた様子で私たちの恋愛話に加わり、予言し、だいたいはその通りになった。

このようなわけで、私が山崎ゼミに入り、生理人類士の試験を受けることにしたのは自然な流れであった。「生理人類学」の講義は前期に終わり、「生理人類学実験」が進行中であったが、生理人類学がどのような学問であるのか、よく分からなかった。ところが、受験のための特訓を受け、資

格を得たら、突如分かったような気分になった。そして卒業研究の方向も見えてきたのである。

私と生理人類学との関わり

吉田彩（福岡女学院大学人間関係学部）

私は生理人類学を学ぶにあたり、日常生活で何気なく取る姿勢や動作は、心身の疲労やストレスに大きく影響していることを知りました。そのため近年では、そのことを視野に入れ、身の回りの製品や空間のデザインのあり方を考慮する必要があるとされています。

そしてこの度、家具メーカーへ企業研修に伺い、家具デザインを制作させていただくことになりました。家具とは生活全般に関係し、暮らしに重要な役割を果たしており、家具のあり方は人間のあり方にも影響しているものではないかと考えます。生理人類学で学んだ知識を生かし、人間の身体特性を尊重したデザインを考案することが出来ればと考えております。また環境に良く、素材の良さを生かした、温かみや心地よさを感じられるような家具製品の制作を心がけたいと思っております。そのためにも生理人類学の学問により一層励み、知識を深め、私の周りの方々やたくさんの方々が、幸せに暮らしていけるようなお手伝いが出来るよう精進していきたいです。

資格を取得して

佐橋那央子（金城学院大学生活環境学部）

私は、大学で人間科学系・生活科学系の授業を学んでいくうちに、人が暮らしやすい生活環境の提案・アドバイスができるスペシャリストになりたいと思うようになりました。そして、生理人類士資格は、「あらゆる人が暮らしやすい生活環境の提案・アドバイスを行うことのできる資格」であると知り、まさに私が考えていたことと一致していたため、この資格取得を目指すことにしました。いざ試験勉強をしてみると、人に関わるあらゆる知識が詰まった内容で、自分の知識不足を感じました。しかし、だからこそより興味深く学習でき、試験に合格できたのだと思います。資格を取得で

きたことにより、目標に近づくことができました。今後はさらに知識を深めていくとともに、この資格が活かせる場面を自ら進んでつくり、少しでも人々の暮らしの改善や快適の追及に役立っていきたいと考えています。

生理人類士を受験して

小関 茜（東北文化学園大学科学技術学部）

私は「人間環境デザイン学科」という建築系の学科に所属していて、当初は、生理人類士2級（アメニティスペシャリスト）との関わりや必要性はあまり感じられませんでした。しかし、資格の説明や講義を受けているうちに私の意識は変わりました。

人の体の構造や歴史、生理現象というのはとても興味深いものだと思います。人の暮らしは建物、家があってこそ成り立っているのです。ストレスの溜まるような家は人にとって良くないと言えます。そこで、人が快適に暮らすためにはどのような家にすべきかなどを知るために、生理人類士の知識や資格は必要なのだと感じました。

テキストが配布されて勉強を始めてみると、思っていた以上に学習範囲が広く、難しく感じましたが、少しずつ前に進むことができました。それは、自分の体にも関することなので、自然に興味がわいてきたからです。資格の勉強をして得た知識は、自分自身にとっても役立つことばかりでしたので、受験してよかったと思いました。

【2012年度各資格取得者氏名（敬称略）】

< 1級特別認定 >

岩永光一、甲田勝康、原田一（以上3名）

< 準1級 > 佐藤公樹 有泉佳苗 瀧澤友美

宮澤大喜 石川玉絵 石田佳子 井上侑

大坪彩乃 甲斐田莉芳 竹村瑞希 富永綾

中村咲瑛 松本真実 光安唯香（以上14名）

< 2級 > 吉村昌子 渡邊直子 永井京子

片山泰子 野島康恵 小川ひろみ 秋葉奈緒

浅沼幸子 大場亮平 藤井佳世 吉岡菜緒美

小山由枝代 森谷由祐子 中島星司 田嶋雄大

大森祥太郎 高塩希菜 山上真未 村山佳穂
渡邊悟史 大部優花梨 小林大祐 山田政宗
渡辺琢矢 小松尚寛 大野敬太 藤田香穂
寒川裕文 古俣友理 山室雅乃 櫻井健有
赤尾津和希 浅井優 新井裕美 飯村奈津子
飯盛夏菜子 荻原瞳 小林えり子 塩地成香
鈴木優花 竹村真由子 鳥山菜穂 永倉由貴
長島佑依果 濱田京子 林梨花 福田美帆
藤田悠 松田紗織里 百瀬さつき 薬師寺紗栄
吉武千晶 一木彩加 蛭子谷佳奈 金田なみき
後藤南椰 坂口真衣子 笹栗央子 清水ありさ
新内彩日 鈴田愛 高尾彩良 田中丸ひらり
津江真理子 福田有希子 溝口由佳 宮崎愛華
六車玲那 村山菊乃 山下純佳 山田友子
吉田彩 渡邊沙貴 岡田英里 佐橋那央子
松下結美 盛川あかね 湯地史美子 小関茜
伊藤梓 遠藤茜 大谷彩貴 酒井くるみ
石川ひろみ (以上 84 名)

【2012年度表彰者氏名】

<準1級>佐藤公樹(武蔵野大学)、井上侑・
甲斐田莉芳(福岡女学院大学)、以上3名。
<2級>小川ひろみ・渡邊悟史・山上真未(武蔵
野大学)、永倉由貴・林梨花(実践女子大学)、
吉田彩・渡邊沙貴(福岡女学院大学)、
佐橋那央子(金城学院大学)、石川ひろみ(島根
県立大学短期大学部)、以上9名。

【2013年度生理人類士認定試験】

- 1) 受験申込み期間
 - ・9月20日(金)～10月10日(木)
- 2) 試験日
 - ・準1級および2級: 11月30日(土)
 - ・1級: 12月1日(日)
- 3) 受験料
 - 1級は、1万2千円。準1級および2級は、指
定校に所属する者8千円、指定校に所属しない
者1万円。
- 4) テキスト『生理人類士入門』
これは生理人類学の基礎を学ぶための参考書で

す。準1級および2級受験用の予想問題集を兼ね
ており、受験者には1冊が配布されます(定価3
千円。代金は受験料に含まれます)。

【2級受験に伴う特典】

指定校に所属する2級資格受験者は、日本生理人類
学会の学生会員になることができます(ただし入会金
1000円を納めること)。これにより、学会が主催する
年次大会等の行事に学生会員料金で参加することが
でき、また各種情報の配信を受けることもできます。
詳細は下記の学会ホームページを御覧下さい。

<問合せ先>

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5

アカデミーセンター

日本生理人類学会資格事務局

電話 03-5389-6218 FAX 03-3368-2822

Eメール jspa-post@bunken.co.jp

学会ホームページ <http://www.jspa.net/>

【編集後記】

窓の外は一面の冬枯れである。しかし鳥たち
には彼らなりの価値観があり、何やらついばみ、
今を生き、明日を生きるのだろう。シャレ内
の大腸菌の気持ちなど分かりようもないが、う
わっ、ぽこっ、こんにちは、僕たち2世です、
うわっ、ぽこっ、こんにちは、僕たち3世です、
といった具合に暮らしているのだろう。

人類は、現実より未来に関心がある。先々の
不安が解消されてようやく真の快適さを得る。
政権が交替し経財界に薄日が射しているらしい
が、重要であるのは、先々自分はどうなるのか、
絶望の海に浸り続けるような暮らしをしなくて
済むだろうか、ということである。

未来のことは誰にも分からない。今できるこ
とをやる他ない。目の前の邪魔な小枝を切り払
いながら生きる他ない。

原稿の執筆依頼は邪魔な小枝であったのかも
知れませんが、しかしお陰様で「アメニティの機
関紙第10号」が完成しました。御協力下さった
皆様に心から御礼申し上げます。(山崎和彦)